

カツちゅん ショウくん
かほくがた ナルドレン

連載 河北潟の仲間たち ⑤



第5回 スッポン



高級食材としては知られているが、野生生物としてはあまり知られていない。効能は知られているが、生態はあまり知られていない。「河北潟にはスッポンが棲んでいます」というと、びっくりされる方もいます。高級料亭にでも行かないとお目にかかれないと思いきや、意外と身近な生き物です。天気の良い日には、河北潟の流入河川の水際や干拓地の水路のあちこちで、日向ぼっこをしています。

スッポンはカメの仲間です。他のカメと同じように甲羅をもつ爬虫類です。ただし甲羅をつくっている骨が小型化し柔らかな皮膚に覆われていて、他のカメのような甲羅を被う鱗(角質甲板)がないことから、カメ類とは異なるグループであると思っている人も多いようです。スッポンはカメ類の中の潜頸亜目(首を垂直にS字形に縮めるようにして引っ込めるタイプのカメ、その他に曲頸亜目:首を水平に折り曲げて甲羅に収めるタイプのカメがある)に属しています。潜頸亜目には、カミツキガメ上科、ウミガメ上科、ドロガメ上科、リクガメ上科、スッポン上科と分かれていて、日本のスッポンはスッポン上科のスッポン科に属しています。ちなみに、河北潟にいる他のカメであるイシガメやクサガメはリクガメ上科に属しています。

終生陸上に生息するリクガメの仲間から、産卵期以外は陸に上がらず大海を回遊するウミガメ類まで、カメ類の水との関係の強さはさまざまですが、スッポンは、クサガメなどの他の淡水ガメと比べると、水域への依存度が高いグループです。伸びた鼻先や発達した水かきなど、形態的にも水中生活に適応していると思われます。

警戒心が強く物音には敏感で、日向ぼっこのため上陸しているときは、人が近づくと素早く水の中に潜ってしまいます。泳ぎも速く、また砂泥の底質を好み、すぐに潜って隠れてしまいます。実際には結構個体数が多いと思われませんが、そのような行動をとるため、なかなかみ

ることができません。それでも、まれに河北潟干拓地を徘徊していたり、道路で自動車に轢かれたりしたスッポンを見かけます。孵化したばかりの子ガメはうまく潜れないのか、水面をひよこひよこ泳いでいるのを見かけることがあります。

噛みつくとも雷が鳴っても離さないと良くいわれますが、実は臆病なゆえに防衛のために噛みつくようです。肉食性で魚類や甲殻類などを食べるとのこと。河北潟では、アメリカザリガニが幅を利かせすぎているので、捕食者としてのスッポンに期待したいところです。(文 高橋 久)